老若男女　誰でも自然体で立ち寄れる「喫茶ランドリー」（座間市）

小田急が手掛けるリノベ団地（ホシノタニ団地）１階に佇む、喫茶のあるランドリー。団地の人だけではなく、他のエリアの方も立ち寄れる場にすることで、資本では実現できない新たな価値を見出している。メニューは本格的で、お腹もしっかり満足させてくれる。

(株)グランドレベルの田中さん(経営者)をインタビュー

インタビュー時、県立座間高校美術部＆文芸部生徒の作品が展示

田中さん曰く「どなたでもやってみたいことをやる場所にしたいですね」

大切にしていること、工夫していることはありますか？

コペンハーゲンで、ランドリーのある喫茶店を訪れ、全く属性の異なる人たちがくつろぐ風景にショックを受けました。日本の「ビジネスマン向け」「30代女性向け」みたいな属性、縦割りには違和感を感じます。だから、特定の属性を感じさせない工夫、誰でもそれぞれに自由でいられる空間を大事にしています。交流が半強制的になりそうなので、あえて「コミュニティ」というワードは使いません。あとは、役に立たないけど心地よい生活の工夫、たとえば昭和の黒電話にレースカバーみたいな気配りも大きな意味があると思っています。

行政ではなかなか臨機応変にできないようなことをやってくださっているんですね

自分が年をとって動けなくなった時、ダサい場所で生きるのは嫌。だから、自分で手作りの公民館のようなものを作りたいと思っていました。それをマイパブリックと呼んでいますが、「良いこと」というより「好きなこと」、「正しいこと」というより「楽しいこと」という意識でやっています。行政が作ると一枚岩でも、民間は無数の可能性がある。色んな人の色んな公共ができるといいですね。

色んな地域に広がるといいなと思います。これから始めたい人にアドバイスなどお願いします

稼ぎたいという目的には直接的には合わないと思います（「稼げない」のではなく、「稼がない場所」と決めてやっています）。マネタイズに走ると目的がぶれてしまう（自分は誰かをとりこぼさないことを重要視しているわけではありません。自分が作りたい場所を作って、それが合わない人をとりこぼすことは、自然なことだと思っています）。自分は別に本業があり、低空飛行の実験場みたいなもの。そこを理解していないでやると矛盾が生じてしまう。

喫茶ランドリーホシノタニ団地の所在地：座間市入谷東３丁目５９-３